

# チャートで読む政治

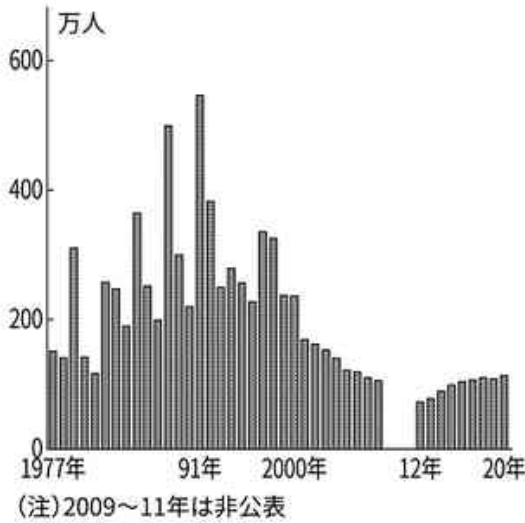
組織と資金①

政党政治には組織と資金が不可欠といわれる。政党が有権者の声を聞き、選挙に勝つために黨員の組織が基盤になる。資金の多寡は活動の規模や質を左右する。

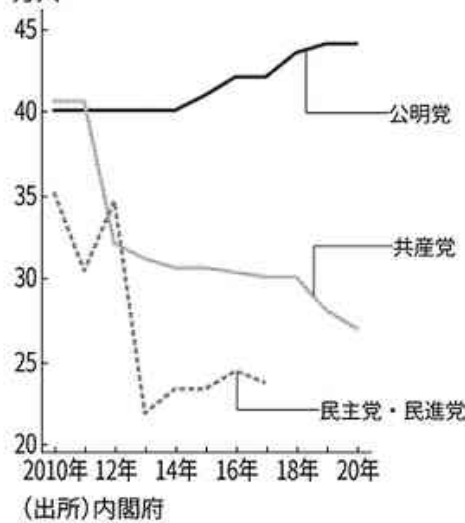
「全国の黨員、国会議員の皆さん、ぜひ一緒に走っていただきたい」。9月29日、自民党総裁選に勝った岸田文雄氏は呼びかけた。衆院選へ党組織の総動員を掲げた。総裁選は国会議員票と黨員・党友票の合計で争った。党費を2年払った黨員ら黨員投票ができる人は110万4336人で投票率は69%だった。

## 自民党員数、ピークの2割

自民党員数のピークは1991年



自民党以外の政党の党員数



岸田氏は最初の投票で、その後、首相になった。河野太郎氏を1票上回り、自民党が第1党の場になった。岸田氏が勝利し、相を選ぶ選挙になること

## 113万人、政権奪還後で最多

が多い。「総裁選の投票権がある」は黨員勧誘の定番文句だ。自民党員になるには条件がある。党の綱領に賛同し18歳以上で日本国籍を持つことなどだ。年4000円の党費も納める。短期的には黨員数は増加傾向にある。2020年は113万6445人で前年から5%弱増えた。12年末の政権復帰後で最多だ。12年の73万人から56%も増加した。長期的にはかなり減った。ピークの1991年(546万人)の2割程度だ。92～2000年は200万～300万人台、01年以降は100万人台だった。党職員は「昔は業界団体が総裁選の投票権を得るために複数の黨員登録をした例もあった。いまはあり得ない。数百万人の黨員確保は困難」と話す。現在は当面の目標を

120万人と定める。強固な黨員基盤がある党は組織政党とも呼ばれる。創価学会を支持母体とする公明党や共産党があてはまる。内閣府の資料によると公明党の黨員数は野党時代の10年に40万人だった。20年は44万人に増えている。共産党は10年に40万6千人だったが20年は27万人に減った。党内で「若年層の入党が限定的で組織が高齢化している」との指摘がある。09～12年に政権の座にいた民主党は10年に35万人ほどの黨員がいた。野党転落後の13年は22万人弱に減った。現在、野党第1党の立憲民主党は党費が4000円の黨員と20000円の協力黨員の合計で10万267人と公表した。10年前の民主党の3分の1以下だ。与党と対峙するには基礎体力となる組織基盤が重要になる。